

平成 21 年 12 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 21 年 第 11 回講話

#### 今日、死んでも大丈夫？

今日は、今年最後のフォーラムですので、いつもと少し違う聞き方を致します。

一年間、人の為になるような良い嘘をついたなと思う方は手を挙げて下さい。

(・・・沢山手が挙がる)

一年間、人を陥れるような悪い嘘をついた方はおられますか？

(・・・手が挙がらない)

今まで、「嘘をつかなかった方？」と聞いていますが、だんだん嘘の中身に入ってこなければならぬと思っています。

昨日一日で結構です。有難うと言い、有難うと言われた方？

(・・・沢山手が挙がる)

「有難う」と言われたという自覚を持っている方が、こんなに集っているのは素晴らしい。「有難う」とは言っても、「有難う」と言われたというところで手が挙がらないものです。

では、滅多にしない質問です。先月、館野本部幹事が亡くなられましたが、ご本人は死ぬことなどまるっきり考えていない状況で亡くなりました。

今日、急に死んでも、後に悔いは残らないという方はおられますか？

・・・やはり少ないですね。悔いは残らなくても、後始末が大変だろうと思います。死に支度とか老い支度と申します。人様に迷惑をかけないようにするためには、私も含めて、日頃から身の周りを片づけておくのがよいと思います。

皆さんも毎年毎年、1 年を振り返る事があるでしょうし、スタートを考えることがあると思います。そういう時に結構役に立つのが、自分のメモ書きです。この時はこういうことを考えていたのだな・・・この時はこうだったから、次はこうしよう・・・といった具合になります。そう考えると、日記をつけると良いと思います。日記が無理なら週記、週記が無理なら月記、或いは何か、特別な日に書く方もおられるでしょうが、ぜひお勧めします。

## 論語の中に現代を見る

今日は論語の解説をしながら、中斎塾フォーラムの根幹になるものを混ぜてお話しします。  
本日の論語の素読は、里仁第四 17～26 です。

子曰く、賢を見ては齊しからんことを思い、不賢を見ては内に自ら省みるなり。

残念ながら、ああなりたいと思わせる有徳の人が、今の日本にいるでしょうか。昔は子供さんに「末は博士か大臣か」と言いました。今は、博士になって何かよいことがあるのだろうか、大臣になって吊るし上げをくらってよいのだろうか・・・と考えると、ああいう人にはなりたくないと思うものばかりではないでしょうか。

この文章は二つ視点があります。身近で、＜ああいう人になりたいな＞と思うような人がいれば幸せです。身近でなくても、今はマスコミが発達していますから、テレビで見たりどこかのイベントに出かけ行って、自分の手には届かないけれども目に入る人達を見て、＜ああいう人になりたいな＞と思う人がいれば良いのです。しかし今のマスコミの取り上げ方は、褒める時はもの凄く褒めますが、いったんひっくり返ると、凄まじく叩きます。一時期、ホリエモンをマスコミの寵児で持ち上げて、ひっくり返りましたね。

書店に行くと、松下幸之助さんや中内功さん、稲盛和夫さんに関する本が沢山出ています。中内さんは最近あまり出ていませんが、松下幸之助さんに関する本は急激に増えています。一昔前の中村天風先生や安岡正篤先生の本も増えています。有徳の人、こういう人になりたいなという気持ちが、だんだん又、大人の中に復活してきたのではないかと考えます。

この文章から、現代の世相を見ることが出来ます。又、自分自身＜ああいう人になりたいな＞と思う人がいなければ、それを見つけようという気持ちを起こさせるし、才能や徳が劣る人を見ては、＜あのようになりたくないな＞と思う。そのあたりもこの文章から見えます。

子曰く、父母に事えては、幾諫す。志の従わざるを見ては、又敬して違わず。  
勞して怨みず。

幾諫するとは、遠まわしに、相手が何となく悟るように諫めることです。両親の気持ち

を傷つけないように、遠まわしに言う。それがなかなか伝わらないで、自分の諫めを受け容れないようであれば、親を尊敬しつつ、自分の思っていることを曲げずに時期を見て諫めるようにする。大変な思いをするけれども、両親は決して恨んではいけないという文章です。

自分自身、親に対してこのようなことができるかという、少し考えざるを得ません。これは私は、自分の子供たちに対して言う言葉なのだろうと思います。自分の親に対して幾諫するのはなかなか難しい。ならば自分の子供や孫達にこういう論語の一節を教えるべきであろうと思います。

子曰く、父母在すときは遠く遊ばず。遊ぶに必ず方有り。

両親がいる時には、遠い所には行かないことだ。どこかに出かける時には必ず行き先を告げなさいという意味です。

しかし孔子の時代と今とは、大分違います。飛行機や新幹線もありますし、連絡の方法も変わっていますので、今は、行き先を告げて、すぐに帰って来られる所であれば、出かけてもよいと思っています。

翻って鳩山さんはどうなのかと思います。政治家は度々遠方に行きます。そのたびにお母さんに連絡を取ってはいないでしょう。1500万円の小遣いを毎月母親から受け取って、結果として約10億円を貰っていて、そのことすら知らなかったというのですから、あり得ない話だと思います。親に会っていなかったと言い訳をしていましたから、親不孝な人が内閣総理大臣になるというのは、あまり嬉しくないと感じました。

子曰く、三年父の道を改むること無きは、孝と謂うべし。

父親が亡くなって三年間は、家業を継いで父親のやり方を改めない。これは親孝行である。

今のご時勢、父親のやっている商売を三年間同じように続けるというのは、かなり考えものだと思います。渋沢栄一はこの文章に関して、「孔子が言っているのは、三年間喪に服して何もしてはいけないということではない。そういう気持ちを持って、親の意を汲んで、改めるべきは改めるが良いということだ」と言っています。

渋沢栄一は24歳の時に家を飛び出して、高崎城の乗っ取りや横浜の焼討ちを計画するなど、テロ軍団の一方の旗頭のようなものになりかけたり、親からもらったお金を使い果

たし、借金もして、放埒を繰り返しました。親からみると、かなりハラハラしたと思いますが、29歳の時に一橋家に仕官して家に戻っています。その後は、自分の息子がどんどん出世していくものだから、父親は息子が帰ってくる時にはお殿様を迎えるような言葉遣いで息子を立てたといえます。父親が危篤の知らせを受けて渋沢栄一が帰った時には、「お前がいてくれれば、何も心配することはない」と言い残して亡くなったそうです。普通ですと三年間は服喪しますから、父親のやっていた仕事である藍玉商を続けなくてはなりません。先を見据えて家業をやめています。ですから渋沢栄一は、論語に書いてある本当の意味を自分なりに理解して行動すればよい、ということを書いているわけです。

子曰く、父母の年は知らざるべからず。一は則ち以て喜び、一は則ち以て懼る。

両親の年は常に知っておくべきだ。一つは親の長寿を喜び、一つは両親の老いを懼れ心配する。

皆さん、ご両親の年を覚えておられるでしょうか。

子曰く、古者、言を之出ださざるは、躬の速ばざらんことを恥ずればなり。

昔の人が口数が少ないのは、行動が言葉ほどには出来ないことを恥じたからである。

民主党の鳩山さんそのものですね。「国会議員が何か問題を起こした時には、秘書のせいにして逃れることなく即座に辞任すべきだ」と、野党の時にはさんざん言っていました。今、その言葉に縛られています。政治家はあまり喋りすぎるべきではありませんね。喋れば喋るほど、後で返ってきます。民主党もマニフェストを大々的に出しましたから、現に今、苦しんでいます。しかも鳩山さんは恥じていませんから、もう辞めざるを得ないだろうと思います。自分で話したものが、自分に返って来ています。アメリカに対して良い事を言い、沖縄に対しても良い事を言い、皆それぞれ良い事を言ってどうにも身動きが取れない状況です。後は自分で引退するか、首を切られるような状態で辞めざるを得なくなるか、いずれにしても辞めるタイミングを見計らっている時期だと思います。

ちなみに沖縄の普天間基地の話をお願いします。先日、私は氣になって沖縄に行ってきました。私としては珍しい体験をしました。琉球国の国王の墓にお参りをしましたが、何となく空気が違うのです。空気がよどんでいて、異界に入ったような感じがしました。資料を読むと、琉球国は明治維新の際、廃藩置県により日本国に併合されたと書いてありました。

しかし、日本国のどさくさに紛れて併合されたというニュアンスが感じられました。私は総合的直観力で、沖縄は独立の方向に進んでいると感じました。沖縄に住んでいる人達が好むと好まざるとにかかわらず、意識するしないにかかわらず、沖縄は独立する方向で動くであろうと感じました。そう考えた元は、お墓で感じた異様な雰囲気からです。

世界的な動きの中で見れば、アメリカとロシアが紛争を続けていて、アメリカは自分の勢力範囲を作りたいから基地をこしらえる。ロシアはそれに対して反対する。ロシアが新しいパイプラインを作ろうとすると、アメリカが遮っています。世界各地でアメリカとロシアが代理戦争をくり広げています。民族戦争を煽り立てて、その民族が国家から独立するように仕向けています。ですから日本の中で沖縄が独立する方向に行ったとしても、何らおかしくはないと思います。

歴史を遡ってみれば、ソ連は北海道を欲しかったわけです。その為の動きをして、今は北方領土だけで収まっていますが、日本が弱体化すれば、北海道を全部取ろうと動くのは目に見えています。アメリカは沖縄を自由に動かして、すべてを基地化したいと思っています。表面的には沖縄を独立国家としてアメリカが応援をする形にするでしょうが、属国化して基地丸ごとという形を進めたいわけです。中国はアメリカと交渉して、太平洋側を中国とアメリカで取りましょうという交渉をしているのではないのでしょうか。

こういった世界各国の思惑を踏まえながら沖縄をみると、< 沖縄は独立国家への方向性で好むと好まざるとにかかわらず動き出している > と、考えました。

しいわ やく もつ これ うしな もの すくな  
子曰く、約を以て之を失う者は鮮し。

約とは、控え目にすることです。

あまり出しゃばって自分を全面に出し過ぎると、足をすくわれる。結果として、過失やミスが出てくるだろうと思います。

亀井さんも小沢さんも出しゃばりすぎるから、とんでもないしっぺ返しをくらうだろうと思います。皆さんも何か実感があるかもしれません。自分自身心を引き締めて、いつも控え目であるようにしないととんでもないしっぺ返しがかかる。控え目控え目を心がけると、ミスが少なくなるとお考え下さい。

しいわ くんし げん とつ こう びん ほつ  
子曰く、君子は言に訥にして、行に敏ならんことを欲す。

あまり軽々しくものを言わない。しかし、行いは敏捷である。そういう人が良いという

ことです。

孔子は自分が世に出ることは思い通りにいかずに、自分の願いは挫折しました。その結果、弟子を教育しようとした。三千人のお弟子さんを教育し、孔先生に教わったエリートであれば我が国に招いて大臣にさせたい、という風潮を作り上げたわけです。

その孔先生曰く、各国の重要なポストに就きたい者は、軽々しくものを言わず、しかし素早く成果は上げなさい。そうすれば希望する国の大臣になるのは比較的早いだろう、と読めばよいでしょう。まだ浪人の身である者が、自分が勤めたい国に仕官する為にはどうしたらよいかということが常にありますので、そこらへんを意識して読まれるとよいでしょう。

し いわ とく こ かなら りん あ  
子曰く、徳は孤ならず、必ず鄰有り。

道徳を守る者には、必ず理解者が出てくるものである。

日本は総理大臣がどんどん変わりました。総理大臣を退いた後、その徳を慕って教を請いたいという人が集っているとすれば、その総理大臣は道徳を守る素晴らしい人物であったと言えるでしょう。しかしそのような総理大臣経験者がいるでしょうか。

し ゆういわ きみ つか しばしば ここ はずか ほうゆう しばしば ここ うと  
子游曰く、君に事へて数すれば斯に辱しめらる。朋友に数すれば斯に疏んぜらる。

数（しばしば）とは、煩わしいほど相手が嫌がっても関係なく進めることです。

これから岡田さんが鳩山さんに辱められる場面が出てくるだろうと思います。普天間問題について、岡田さんが余計な事を言っていると鳩山さんは感じているように見えます。鳩山さんは相当不快感を示していると感じます。尤も岡田さんにしてみれば、鳩山さんを「君」だと認めていないのかも知れません。

友達に対して、相手の事を思いやって心の底から言ったとしても、相手には大概伝わらないから、あまり本当のことを言っはいけないと理解して戴ければよろしいでしょう。

河井継之助と小林虎三郎のことは以前も申しました。小林虎三郎は貧乏で、河井継之助から物理的な援助を貰っていました。そのお礼のつもりで、河井継之助の直すべき欠点を次から次に指摘したそうです。全部本当のことだから、河井継之助はそれを黙って聞いていたそうですが、なかなかこのような関係は考えられません。

## 庚寅・・・大人は虎変するか？

中斎塾フォーラムでは、知足の心を身につけて戴くことが一番の目的です。その中で「知行合一」「事上磨錬」「良知」という考え方が相まって、フォーラムが形付けられています。フォーラムの中で安岡正篤先生の干支学の話もしますし、木内信胤先生の総合的直観力の話もします。今日は年末ですから、干支の話をして終りにします。

昨年の今頃、「来年は不況のトンネルに入って、出口が見えません。経済は良くなりません」と申しました。それから一年経って今日申し上げるのは、来年も不況のトンネルは続きます。しかもトンネルの中は凸凹道が酷くなります。頭を天井にぶついたり、転んでしまう事もあるかもしれません。大きな痛手を被らないように、自分を守りつつ一年間過ごされるのが良いでしょう。

来年は庚寅（こういん・かのえとら）です。「庚」は3つ意味があります。受け継ぐ、償う、新しいものがスタートするという意味です。「寅」は協力し合うという意味です。又、寅は「大人虎変し、君子豹変す」という言葉があります。安岡先生の解説では、大人とは内閣総理大臣です。したがって鳩山さんが今までのやり方を反省して、新しいスタートを切るようになれば、「大人虎変す」となります。虎変とは、秋から冬にかけて虎の毛が目を見張るくらい鮮やかな色に生え変わることです。それを見て、周りにいる大臣達も豹変し、自分の考えや行動を変えてゆく。鳩山さんが虎変しなければ、景気は悪いまま、更に酷くなっていくと言えます。

来年は経済の不況は相変わらず続くし、更に悪化する方向に行くと思います。再来年は不況のトンネルを出るけれども、断崖絶壁ですから落ちます。経済の大落下、凄まじい二番底が生まれるでしょう。ですから来年は、その時の為に色々と手を打っておく必要があると思います。自己防衛に徹する年だとお考えください。

本日の講話は以上です。皆様どうぞ良いお年をお迎え下さい。